



福島放技ニュース

THE NEWS OF THE FUKUSHIMA ASSOCIATION OF RADIOLOGICAL TECHNOLOGISTS

2021

11月26日 号

185
VOL.

発行所 公益社団法人 福島県診療放射線技師会

〒963-0201 郡山市大槻町字原ノ町3-1 TEL/FAX 024(954)7595

ホームページアドレス <http://fart.jp/>

巻頭言

カーボンニュートラル



副会長 阿部 郁 明

今年のノーベル物理学賞に米プリンストン大学上席研究員の眞鍋叔郎氏が、ドイツとイタリアの研究者とともに選ばれました。眞鍋氏は地球温暖化予測に関わる大気と海洋の動きを組み込んだ気象モデルの開発に世界で初めて成功し、このモデルを用いて大気中の二酸化炭素濃度の増加が地球の気温上昇を引き起こすことを世界に先駆けて明らかにした方です。日本人が受賞したことに同じ日本人として誇らしく思いました。この温暖化ですがこのまま続くと2030年から2052年の間に1.5℃上昇する可能性が高いそうです。1.5℃ぐらい大した差ではないように感じますが以下のような科学的知見に基づいた可能性が挙げられているようです。1. 人間の住むほとんどの地域での極端な高温の増加 2. 海面上昇 3. 陸上の生物多様性と生態系への影響（種の喪失） 4. 夏季に北極の氷が消滅 5. サンゴ礁の70%～90%が死滅

気象変動がもたらす経済への影響も大きなものとなります。この1.5℃を大きく超えないために日本を含め世界は2050年カーボンニュートラルを目指しています。『カーボンニュートラル』とは炭素中立と言う意味があり、簡単に言うと温室効果ガス排出量を出来るだけ削減し、削減できなかった温室効果ガスを吸収または除去することで実質ゼロにすること。日本のさまざまな企業も2030年～2050年の目標年を掲げカーボンニュートラル宣言をしております。眞鍋さんは米国籍を取得しているとの事、何故取得したのかと問われたときこの様にコメントしています。「アメリカでは、他人の気持ちを気にする必要がありません。私も他人の気持ちを傷つけたくはありませんが、私は他の人の事を気にする事が得意ではない。アメリカでの暮らしは素晴らしいと思っています。おそらく、私のような研究者にとっては好きな研究が何でもできるからです。」そして最後に「私はまわりと協調して生きることができない。それが日本に帰りたくない理由の一つです」と語ったそうです。90歳の眞鍋さんがそう言うのですから日本の研究環境は随分と昔から宜しくないという事なのでしょう。日本では十分に研究費が得られず優秀な研究者が海外へと行ってしまっているのが現実のようです。優秀な研究者にとって研究しやすい環境を整えて頂き海外流出を防いで欲しいですね。

最後に告示研修について少し触れさせていただきます。タスク・シフト／シェアを推進し医師の負担軽減を目的とするため、新たな診療放射線技師法が2021年10月1日から施行され新たな業務が追加されました。この業務を行うための研修を告示研修（厚生労働大臣が指定する研修）と言います。または診療放射線技師登録者全員が受講しなければならない義務研修と考えて頂いても良いかと思えます。東北では11月下旬にファシリテータ講習会が仙台にて行われます。その後、福島県でも診療放射線技師に対する告示研修がいよいよ始まります。告示研修の基礎研修700分（E-learning）については2021年7月31日よりJARTホームページより受講可能となっております。長時間の講習となりますので余裕をもって受講して頂いた方が良いでしょう。福島県診療放射線技師会では、一人でも多くの方が受講出来るよう告示研修を進めてまいりたいと考えております。告示研修の趣旨をご理解頂き、多くの方々に受講して頂きますようお願い申し上げます。

福島県立医科大学 保健科学部診療放射線科学科だより

福島県立医科大学保健科学部診療放射線科学科 久保 均

皆さま、こんにちは。新型コロナウイルス感染拡大が急激に収まってきていますが、まだまだ予断を許さないように思います。第6波が来るかどうか分かりませんが、我々医療従事者としては第6波が来ても対応できるように、今の間に準備しておく必要があると思います。もちろん、その準備が空振りになるのが最も嬉しいですが。

前回で、本年度着任していただいた先生方は全てご紹介させていただきました。まだ2022年4月と2023年4月にも着任される先生方がお見えですので、それらの先生は着任しましたらご紹介させていただきます。

今回は、診療放射線科学科の現状をご報告いたします。2021年4月に開設され、原稿執筆時点で7ヶ月が経過しました。診療放射線科学科の1期生25名は、大きなトラブルもなく順調に勉学に励んでくれています。9月の最終週より後期が始まりました。後期になると、少しずつですが専門科目が入ってきます。まず、学生さんにとって最も大変だと思うのが、「解剖学実習」です。これは、光が丘キャンパスへ移動し医学部の学生らと同じようにご献体を解剖させていただく実習で、理学療法学科、作業療法学科の学生らと共に受講しています。体内を可視化する診療放射線技師には必須の知識だと思いますが、従来はなかなか実習まで行うことは難しかったと思います。本学では、関係各所のご理解と多大なご協力の下で実現いたしました。本科目の重要性は現時点の学生にはなかなか伝わらないと思いますが、病院等で業務に就いてからあの科目があつて良かった、と感じてくれると良いな、と思っているところです。放射線関連の科目ですと、「放射線基礎科学」という科目も開講いたしました。聞いたことがない科目名だと思われますが、これは放射線物理学、放射化学、そして放射線生物学を一緒にした科目です。科目構成上、これら3つの科目を独立して開講する事が難しかったため、一つにいたしました。また、「診療画像機器工学Ⅰ」も開講しております。これは、現在の国家試験の科目で言いますと診療画像機器学の一部となり、X線装置等の機器工学となります。また、「診療放射線科学総合実習」という科目ももうすぐ始まります。これは臨床実習の一部であり、1年生のようなまだ大学に入りたての頃に行う臨床実習は早期医療体験実習（early exposure）と呼ばれているものです。本稿をご覧の先生方は、ご自身はいつ臨床実習へ行かれましたか？多くの場合は、最終学年かその一つ前だけだったのではないのでしょうか？近年は、1単位程度ではありますがこの早期医療体験実習というものが組まれる事が多くなっております。この目的は、早期に医療の現場を実際に見学・体験し、診療放射線技師を目指す学生としての自覚を持たせると共にしっかりとした動機をつけることです。基本的には見学実習ではありますが、本学では診療放射線技師が直接的に関係する放射線部門のみでなく、病棟や検査部門、リハビリテーション部門はもとより、透析部門、手術部門、救急センター、受付や医事課、栄養部門など病院を構成している多くの部門での実習をお願いしているところです。そこでどのような職種の人がどのように働いているのか、どのような患者さんが来院しているのか、そして診療放射線技師は病院においてどのような役割を担っているのか、あるいは担っていくべきなのか、についてしっかりと考えてもらおうと思っております。このように、診療放射線技師に直接関係ある科目の開講が始まっています。

加えて、福島にある大学として特徴的な科目として、「福島の医療環境」という科目を開講しています。この中で、東日本大震災とはどのような震災だったのか、その影響はどうであったのか、さらに各地域の医療環境の特徴について学び、理解することを目的として、相双地域などで東日本大震災・原子力災害を学ぶ施設の見学実習を開催し、「東日本大震災・原子力伝承館」、「東京電力廃炉資料館」、「福島県環境創造センター交流棟『コミュタン福島』」、「とみおかアーカイブミュージアム」を見学しました。これは、全学科の学生が参加しました。このような科目を通じて、福島についての理解を深めていただきたいと思います。思っております。

さて、大学生活の中での大学生らしい活動、といえば、部活とかバイトでしょうか。先生方も、学生時代にバイトに明け暮れて、という生活を送られて見えた先生もいらっしゃるかもしれません。本学部の1期生の学生さん達も、もちろん大学生活を満喫したい！と思って入学してきたと思います。ただ、今は新型コロナウイルス感染拡大の影響が大学生活に大変に影を落としており、いわゆる一般的な大学生活を送ることは非常に難しいです。また、保健科学部には先輩がいないために部活もなければ大学生活を教えてくれる、あるいは見本になる人がいない、という厳しい状況でもあります。しかし、その中でも1期生の皆さんは色々と努力をして彼らのスタイルを創造しつつあるように見えます。詳細に調べている訳ではありませんが、かなりの学生さんはバイトをしているようです。聞くところによると、一般的な飲食店が多いように思います。保健科学部のある福島駅前周辺でのバイトの他に、自宅に近い通学途上の駅近辺でのバイトなどもあるようです。これは、キャンパスが福島駅前すぐのところにあるということで、結構遠くからも通学しているということが影響しているようです。このコロナ禍で大変だと思いますが、学生さんらはそれぞれがんばっています。また、部活については新型コロナウイルス感染拡大の影響により福島県立医科大学として部活動を全面的に中止としておりましたが、感染拡大の縮小に伴って少しずつですが活動を再開させております。入学直後の春に実施できなかった新歓行事などをやっという事ができ、ようやく部活動が動き出しました。もちろん現時点では光が丘キャンパスにしか部活動がありませんので、福島駅前キャンパスでの授業終了後に何らかの手段で光が丘キャンパスへ移動して部活動に参加する、というようにして活動しているようです。光が丘キャンパスでの部活動参加用にシャトルバスがあるのですが、なかなか時間が合わずに苦労しているようです。もう少し良い交通手段があると良いのですが、解決には少々時間がかかりそうです。

コロナ禍で誰もが想像すらしなかった状況となっておりますが、学生さんはたくましくがんばっております。先般、保健科学部を会場としてハイブリッドスタイルで開催されました第11回東北放射線医療技術学会大会（TCRT2021）では、お手伝いとして5名の学生さんにも実行委員のメンバーとして参加していただきました。また、参加者として登録して学会に参加してくれた学生さんもあり、心強い限りです。今後も、県内の研究会や勉強会、そして学会等にも積極的に参加するように促そうと思っております。このような今まで見たこともない学会等への参加は、彼らとしてはかなりの勇気をだしての参加だと思いますので、先生方には温かく迎え入れてあげていただくことを切に希望いたします。

毎日発表される新型コロナウイルス感染者数が激減しており、良い意味で上昇してこないですね。このまま感染拡大が収まり、以前に近い日常が取り戻されての新たな年を迎えたいですね。本原稿が今年最後の原稿だと思います。先生方には本稿を継続してご覧いただき、誠にありがとうございました。あっという間の1年が終わります。まだまだ気が早いところではありますが、どうぞ先生方には良いお年をお迎えください。



～会長 「オンレコ」～

1 「お詫び 令和2年度受賞者名簿漏れ」

会報57での令和2年度受賞者名簿の永年勤続20年が多数記載漏れしている事が発覚いたしました。このニュースでお名前を記載して謝罪いたします。

また、来年度の会報58において、令和2年度の永年勤続20年を改めて記載いたします。当事者の方には大変失礼をいたしました。会長としてお詫び申し上げます。

2 「第3回理事会」

今回もWebexを使い開催しました。Web会議での通信雑費について、継続審議を行いました。JARTの会計士と県の会計士とで見解の相違が大きくなりました。今後は、中間監査で直接話し合いたいと考えます。

3 「第11回東北放射線医療技術学術大会 (TCRT2021)」

前日には、東北会長及び教育委員の会議、大会運営会議も開催しました。

大会では、特別講演、ランチョンセミナー2社、ティータイムセミナー2社、技師会と技術学会の企画（シンポジウム）も多数出揃って来ました。初めてのハイブリッド開催でoViceを使った仮想空

間での学会で、戸惑いや問題も少しありました。

会場参加者は191名、オンライン参加を含めると474名の方が参加してくれました。ハイブリッド開催は大変でしたが、皆さんから良かったとの声を多く聞く事が出来ました。会計も赤字にならず、県技師会から余ったネームホルダー等を寄付して貰いました。

来年度は、令和4年11月19-20日に新潟県の朱鷺メッセで開催します。

4 「告示研修（義務）について」

ファシリテータ養成は、11月末に開催します。厚労省からは、今年度2回以上の研修をとの事なので、県内では土日で2回開催を予定します。1回48名までなので2回で96名が受講出来ます。告示研修でも、保健科学部に協力を依頼しています。

5 「その後の事務所」

研修センター用に、大型モニターの搬入を行いました。今後にも必要な備品を増やして行く予定です。

お詫びとお知らせ

福島県放射線技師会 会報（第57号：2021年）の表彰「令和2年度受賞者名簿」のなかで、受賞された方の氏名の掲載が漏れていることがわかりました。受賞された皆様に対し、謹んでお詫び申し上げます。ここに、再度掲載するとともに、次期会報（第58号：2022年）にも掲載させていただきます。

今後このようなことのないよう編集委員一同編集・校正に努めてまいります。

【令和2年度受賞者名簿】

●叙勲 瑞宝双光章（令和2年度）

伊藤 陸郎 福島県放射線技師会 顧問
佐藤 政春 三春町立三春病院

●公益社団法人日本診療放射線技師会 永年勤続（50年）

《県北地区》

片倉 俊彦 B. B. M. I. L

《県南地区》

音高 正明

●公益社団法人日本診療放射線技師会
永年勤続（30年）

《県北地区》

渡辺 進 医療生協 わたり病院
服部 正人 【JOHO】二本松病院
菅野 徹 福島赤十字病院
阿部 郁明 福島県立医科大学附属病院
清野 真也 福島県立医科大学附属病院
久保 均 福島県立医科大学附属病院
新医療系学部

《県南地区》

緑川 善雄 寿泉堂総合病院
車田 清春 公立岩瀬病院

《浜通り地区》

折笠 秀樹 いわき市医療センター
名城 敦 いわき市医療センター
八巻 功一 いわき健康管理センター

●公益社団法人福島県診療放射線技師会
永年勤続（20年）

《県北地区》

佐藤 喜栄 あずま脳神経外科病院
斎藤 久美 北福島医療センター
松井 大樹 北福島医療センター
岡 善隆 福島県立医科大学附属病院
田代 雅実 福島県立医科大学附属病院
新医療系学部
福田 篤志 福島県立医科大学附属病院
新医療系学部

《県南地区》

三瓶 孝 脳神経疾患研究所附属
総合南東北病院
石森 光一 白河厚生総合病院
田代 淳子 太田総合病院附属太田熱海病院
柳沼 孝寿 太田総合病院附属太田西ノ内病院
塚田 陽子 今泉西病院
笹川 克博 太田総合病院附属太田西ノ内病院
国分 信行 須賀川病院
大原 亮平 太田総合病院附属太田西ノ内病院
水野 由美 安積保養園付属あさかホスピタル

《会津地区》

長谷川和己 福島県立医科大学会津医療センター

《浜通り地区》

藤田 秀明 福島労災病院
安藤 茂樹 常磐病院

「診療放射線技師のための
フレッシュャーズセミナー」開催

日本診療放射線技師会と福島県診療放射線技師会が共催した「新人診療放射線技師を対象としたフレッシュャーズセミナー」が令和3年10月17日(日)にWEB開催されました。今年度は、1年目5名と、2年目4名の計9名の新人診療放射線技師が参加しました。

フレッシュャーズセミナーは、医療者として必要な医療安全学、医療感染学、エチケット・マナーを学ぶだけではなく診療に対応できる新人診療放射線技師として知っておくべき基礎知識の習得を目的として開催されています。今年度からコミュニケーションを含めた必須科目が設けられ、受講者には長い時間の座学となりましたが、気管支体操では画面の向こう側できっと体操して頂いていたと思っております。参加しやすい反面、顔が見えず臨場感がなかったため、来年は是非集合で開催したいと願っております。参加した皆様からは、「医療安全や感染対策など、業務上欠かせない大切な知識を改めて確認する機会となり、今後ともしっかり意識して行動していきたいと思いました。技師として経験を積み始めた今、より深い知識となり理解が深まりました。放射線防護については、被曝のリスクと検査治療の利益をしっかりと見極めて業務すること、それを他職種に周知することがより良い医療を提供することに繋がると思いました。」「一日を通して、社会人としてのマナーから技師として必要となる知識まで、幅広く学ぶことができました。感染対策では、装置の素材により消毒液の種類を変えているというお話が、私自身働いていて気になっていた点だった為、参考になりました。」など、講師陣にはうれしいコメントを頂きました。

(生涯教育委員会 堀江 常満)

『ピンクリボン in 郡山 2021』を開催しました

市民の乳がん検診受診率向上を目指す『ピンクリボン in 郡山』の乳がん啓発活動は今年で13年目を迎えました。令和3年10月24日(日)に星総合病院を発信地として開催された『ピンクリボン in 郡山 2021』は、昨年に引き続き感染予防対策のため、規模を縮小してのオンライン開催となりました。今回は、「検診」「診断」「治療」の3領域から4演題をwebにて80名の方々に視聴頂きました。コロナ禍前は400名以上の参加者があったことを考え合わせると寂しい感を拭えませんが、この状況下では致し方ないのでしょう。「継続は力なり」を信じて地道な取り組みを続けて参りましょう。

(白石 嘉博)

【講演内容】

開会の挨拶

ミニ講演：野水 整（星総合病院）

検診について：二瓶光博

(いがらし内科外科クリニック)

診断について：松壽正實（星総合病院）

外科治療および薬物療法について：

片方直人（星総合病院）

放射線治療について：新野恵司（太田西ノ病院）



地区だより

会津地区

「第2回会津地区協議会委員会」開催

9月28日(火)に竹田総合病院の会場とWebによるHybrid開催で行われ、会場7名、Web5名の出席により開催されました。

委員会は、鈴木雅博委員長を議長とし、県理事会報告及び今後の事業について話し合われました。

会津画像研究会は、コロナ禍であるので、今年度内に2回を目標に開催することを予定とし、1回目（第103回会津画像研究会）を11月の中旬もしくは下旬にWebでの開催を検討しています。会津乳房撮影研究会は、会津若松市の検診が終了する12月以降で開催を検討するとししました。また、診療放射線技師法改正に向けた告示研修（実技研修）について会津地区での開催は、講師になる医師や看護師の条件が不明瞭であることなどから現



時点では難しいが、開催条件がはっきりすれば開催したいとのことでした。

告示研修（実技研修）を受けるためにはJARTのWebでの基礎研修（700分）を受講しないと受けられないため、実技研修を受けたい方は、今のうちにWeb研修を受けてみてはいかがでしょうか。

(平澤)

【訃報のお知らせ】

浜通り地区会員の公益財団法人ときわ会『いわき泌尿器科』 坂寄智広さんが10月18日に逝去されました。心よりご冥福をお祈りいたします。

編集後記

福島県のCOVID-19感染者数が劇的に減り少しほっとした気持ちになっています。インフルエンザの予防接種も始まりましたが、会員の皆様も体調に気を付けて年末年始を迎えてください。

(大井)